雁頭沢遺跡（第12次）
前沢遺跡（第５次）
出寺平遺跡
二枚田遺跡（第４次）

平成18年度一駐車場建設に先立つ雁頭沢遺跡第12次、個人住宅建設に先立つ前沢遺跡第５次、出寺平遺跡、二枚田遺跡第４次緊急発掘調査報告書

2007．３

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の１　○印が雁頭沢・前沢遺跡

序

このたび平成18年度に実施した雁頭沢・前沢・出寺平・二枚田の４遺跡の発掘調査報告書を刊行することになりました。

発掘調査は、雁頭沢遺跡が個人の駐車場、前沢・出寺平・二枚田の３遺跡は個人の住宅建設に先立って、国庫から補助金交付を受けた原村教育委員会が実施したものであります。

雁頭沢遺跡は、埋没保存を考えた遺構の埋没状況を確認する調査で、小竪穴５基を検出しました。検出した小竪穴を精査していないため性格などは不明ですが、今までに実施してきた調査結果を考慮しますと、小竪穴は縄文時代中期の集落址の中央部に位置していることは間違いないことであります。隣接地の宅地も遺跡は埋没保存されており、今後は、このように埋没保存処置を施した遺跡を注意深く見守っていく必要性を痛感しています。

前沢遺跡は、土取りが行われすでに遺跡は破壊されており残念な結果でありました。

出寺平・二枚田の両遺跡は、遺跡の外縁部にあたり住居址などの遺構が分布する範囲から外れており、破壊された範囲は最小限に留まりました。

調査した遺跡は、今までにも村道改良、個人の住宅建設、県営圃場整備事業などの開発に先立って緊急発掘調査を実施し、記録保存をはかってきました。雁頭沢遺跡は12回目、前沢遺跡は５回目、二枚田遺跡は４回目を数えることになります。このように数次におよぶ発掘調査に携わるたびに、それぞれの調査記録をつなぎ合わせ活用するとともに、貴重な文化遺産を後世に伝えていく責任を強く感じているところであります。

発掘調査にあたり、県教育委員会のご指導ならびに発掘調査にかかわる多くの皆様のご協力に深甚なる感謝を表する次第であります。また、発掘調査報告書刊行にいたる過程で、お世話をいただいた皆様にたいし厚くお礼申し上げます。

平成19年３月

原村教育委員会
教育長　望月　弘

例　　言

1　本報告は、平成18年度駐車場建設に先立ち実施した長野県諏訪郡原村室内に所在するに雁頭沢遺跡第12次遺構確認緊急発掘調査、個人住宅建設に先立ち実施した原村柏木に所在する前沢遺跡第5次、同上星に所在する出寺平遺跡、同中新田に所在する二枚田遺跡第4次緊急発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、国庫から発掘調査補助金交付を受けた原村教育委員会が、雁頭沢遺跡は平成18年5月11日から24日、前沢遺跡は5月11日から26日、出寺平遺跡は7月25日から8月3日、二枚田遺跡は11月1日から15日にかけて実施した。整理作業は平成18年11月16日から19年3月20日まで行った。

3　現場の発掘作業における記録は平出一治・小林りえ・坂本ちづる、写真撮影は平出一治が行った。

4　図面等の整理は小林りえ・坂本ちづる、遺物の整理は鎌倉光弥・小島久美子・和田孝幸が行い。石器の実測は株式会社シン技術コンサルに委託した。

5　執筆は平出一治が行った

6　本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。

なお、本調査関係資料に、雁頭沢遺跡は53、前沢遺跡は12、出寺平遺跡は40、二枚田遺跡は67の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、ご指導・ご助言をいただいた多くの方々に厚く御礼申し上げる次第である。

目　　次

序
例言
目次
Ⅰ　雁頭沢遺跡……1
Ⅱ　前沢遺跡……8
Ⅲ　出寺平遺跡……12
Ⅳ　二枚田遺跡……16
報告書抄録

Ⅰ　雁頭沢遺跡

1　発掘調査に至る経過

平成17年に駐車場建設に先立ち遺跡の照会があり計画を知るところとなるが、たまたま予定地に雁頭沢遺跡が所在していたため、その保護につき数回にわたり協議を行った。

自宅に隣接する駐車場建設の要望が強いうえに、自宅用地は昭和63年度に実施した第３次緊急発掘調査で、遺構を確認した後に埋没保存を試みた所であり、本地点においても埋没保存の要望は強く、駐車場の建設施行にあたっては、現地形のまま舗装工事を行い掘削を伴わないことで同意をみた。

その後も調査日程等の打ち合わせを行い、原村教育委員会は国庫から発掘調査補助金交付を受け、平成18年５月11日から24日にわたり埋没保存を前提とした緊急遺構確認調査を実施した。

2　調査組織

事務局　原村教育委員会

教育長　津金　喜勝（～平成18年７月22日）

望月　　弘（平成18年７月23日～）

教育課長　百瀬　嘉徳

文化財係長　平出　一治

文化財係　平林とし美

調査団　団　　長　津金　喜勝（原村教育委員会教育長　～平成18年７月22日）

望月　　弘（原村教育委員会教育長　平成18年７月23日～）

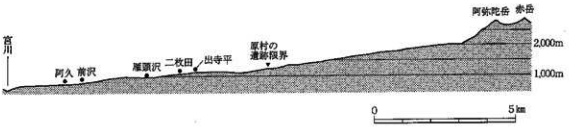
調査担当者　平出　一治（文化財係長）

調査参加者　発掘調査　鎌倉　光弥　小島久美子　小林　りえ　坂本ちづる

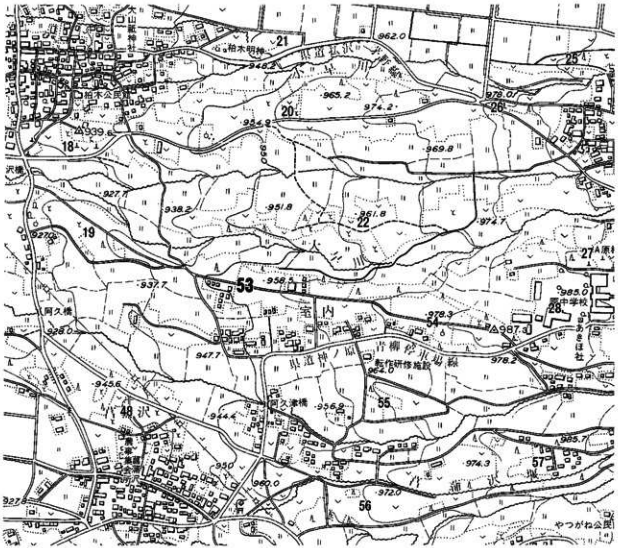
和田　孝幸

整理作業　鎌倉　光弥　小島久美子　小林　りえ　坂本ちづる

和田　孝幸



第１図　原村域の地形断面模式図（宮川―前沢・雁頭沢・出寺平・二枚田―赤岳ライン）



第２図　履頭沢遺跡の位置と周辺の遺跡（１：10,000）

表１　履頭沢遺跡の位置と周辺遺跡一覧

○は遺物発見　◎は住居址発見

番号	遺跡名	旧石器	縄文 草	縄文 早	縄文 前	縄文 中	縄文 後	縄文 晩	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
18	前尾根西					○									
19	南平			○		◎							○		平成９年度発掘調査　消滅
20	前尾根				○	◎	◎					◎	○	○	昭和44・52・53・59・平成９・15年度発掘調査
21	上居沢尾根					◎	○						○	○	平成４年度発掘調査
22	清水			○	○	◎	○					◎	○		平成８年度発掘調査　消滅
25	長尾根			○		◎						◎			平成８・10年度発掘調査
26	家下					○						○		○	昭和59・平成９・12・13年度発掘調査
27	鬼盛沢					○						○	○		昭和62・平成９年度発掘調査
28	宮平											○	○		村史跡
48	檜の木					◎						○			
53	履頭沢					◎						○		○	昭和54・57・63・平成４・５・９・10・13・15・18年度発掘調査
54	宮ノ下			○		○						○	○	○	昭和57・58年度発掘調査
55	中尾根				◎	◎	○					◎		○	平成６年度発掘調査
56	家前尾根				◎	◎						◎		○	平成６年度発掘調査
57	久保地尾根					◎						○		○	昭和５・平成６～８・13・14・17年度発掘調査

3　発掘調査の経過

平成18年5月11日　発掘準備をはじめる。

23日　現地で打ち合わせ、トレンチ設定を行う。

24日　重機でトレンチの掘削、引き続き人力でトレンチ内の精査を行い、小竪穴状の落ち込みを確認する。記録をした後に埋め戻し調査は終了する。

4　位置と環境

雁頭沢遺跡（原村遺跡番号53）は、長野県諏訪郡原村室内区に所在する。原村役場の西方約1kmという地理的条件に恵まれていることもあり宅地化が進んでいる。

この付近は八ヶ岳の西麓にあたり、東西に細長く伸びた大小様々な尾根が幾筋も見られる。それらの尾根上から斜面には第2図および表1に示したように縄文時代を中心とした多くの遺跡が埋蔵されている。その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する阿久川と大早川により南と北を浸蝕された東西に細長い尾根上から南斜面に立地している。尾根上の平坦面は80mほどで、南の阿久川側は緩やかであるが、北の大早川側は急激な斜面である。標高は960m前後を測り、地目は普通畑で地味は良い。

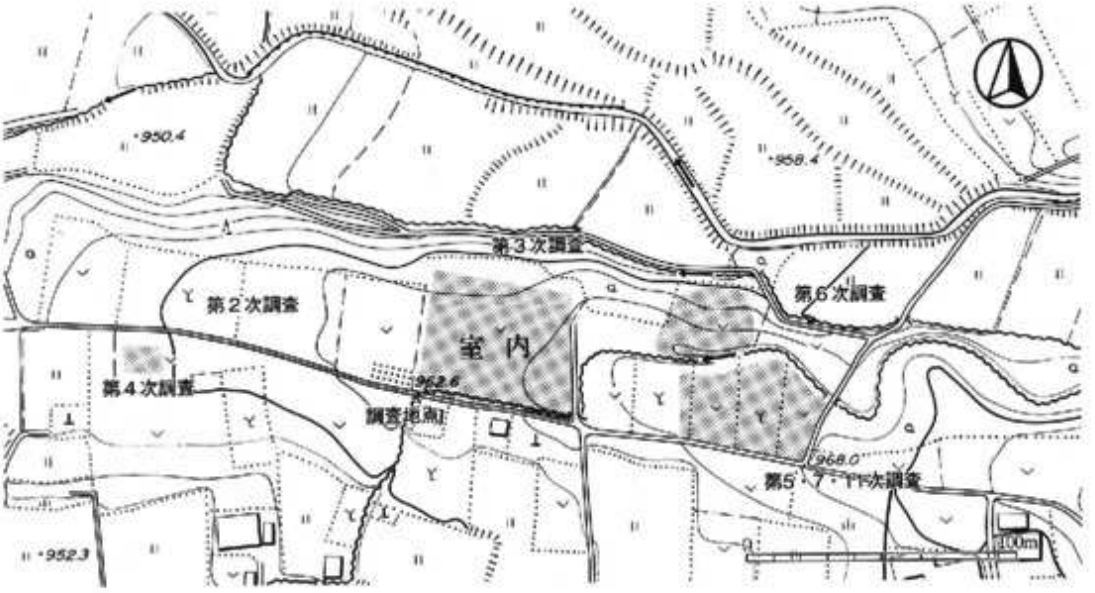
この尾根筋の西方約1.7kmには国史跡の阿久遺跡があり、その先でフォッサマグナの西縁である糸魚川―静岡構造線の断層崖に沿って北へ流れる宮川によって断ち切られている。

本調査地点は、第1次調査地点の北、第3次調査地点の西に接しており、両調査の成果からみて環状集落址の中央部に位置することは明らかである。

本遺跡における発掘調査を表2にまとめたが、昭和54年度の村道改良事業から12次を数え、縄文時代中期初頭から中葉における集落址であることが判ってきている。

表2　雁頭沢遺跡発掘調査一覧表

	調査年度	調査原因	検出遺構等	文献
第1次	昭和54年	村道改良事業	縄文時代中期竪穴住居址　1軒 小竪穴　4基	文1
第2次	57年	村道改良事業	近世　沙址　1 時代不詳　配石　1基	文1
第3次	63年	住宅団地造成事業	縄文時代中期竪穴住居址　6軒（内3軒を精査） 小竪穴　82基（内47基を精査） 単独土器　1 時代不詳　沙址　2	文2
第4次	平成4年	個人住宅建設		文3
第5次	5年	個人住宅建設		文4
第6次	5年	宅地造成事業		文5
第7次	5年	工場建設	縄文時代中期小竪穴　2基	文5
第8次	9年	県営圃場整備事業	縄文時代中期小竪穴　2基	文6
第9次	10年	村道改良事業		
第10次	13年	建売住宅建設		文7
第11次	15年	工場・駐車場建設		文8
第12次	18年	駐車場建設	本調査 縄文時代中期小竪穴　5基（未精査）	本調査



第3図　雁頭沢遺跡発掘区域図・地形図（1：2,500）

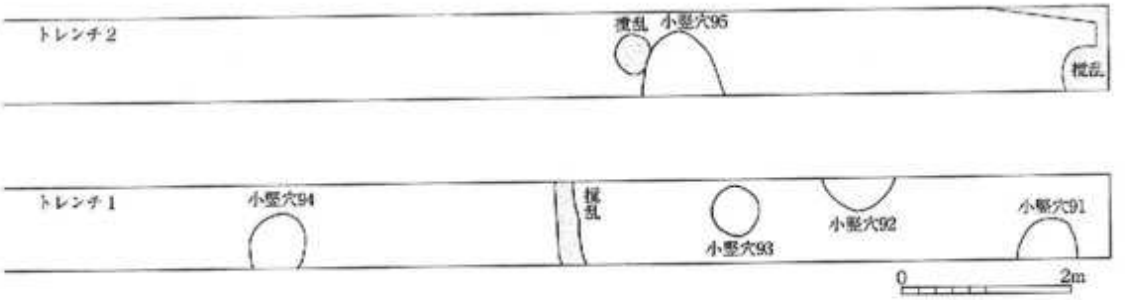
5　調査方法と層序

調査の対象は第3図に示した駐車場建設予定地で、自然傾斜の尾根方向に2本のトレンチを設定した。重機で巾1.2m（バケット巾）のトレンチを掘削し、引き続き人力でトレンチ内の精査を行い、遺物と遺構の検出に努めた。ソフトローム層の上面で遺構を確認している。

ソフトローム層上面までのトレンチの深さは、耕作により畑地は水平化が進んでいることから東が浅く西が深くなる。その深さはトレンチ1で33～55cm、トレンチ2で32～42cmを計る。

土層は、ローム層に達した耕作による撹乱も見られたが、基本的に上層からみて、Ⅰ層は15cm前後の

写真1
雁頭沢遺跡調査対象地区遠景
（西から）



第4図　雁頭沢遺跡小竪穴検出位置図（1：80）

表3　雁頭沢遺跡検出小竪穴一覧表

（カッコ付けの数値は、検出現存部分を示す）

番号	検出位置	平面形	規模			埋土・平面観察等
			長軸cm	短軸cm	深さcm	
91	トレンチ1	楕円形？	(48.0)	70.0		ローム粒混褐色土。
92	トレンチ1	円　形？	87.0	(40.0)		ローム粒混褐色土。
93	トレンチ1	円　形	60.0	57.0		ローム粒混黒色土。
94	トレンチ1	楕円形	(67.0)	67.0		ローム粒混褐色土、検出面に小礫1点。
95	トレンチ2	楕円形？	(78.0)	98.0		ローム粒混黒色土、不明瞭な落ち込みである。

写真2　雁頭沢遺跡トレンチ1小竪穴検出状況（西から）

写真3　雁頭沢遺跡トレンチ2小竪穴検出状況（西から）

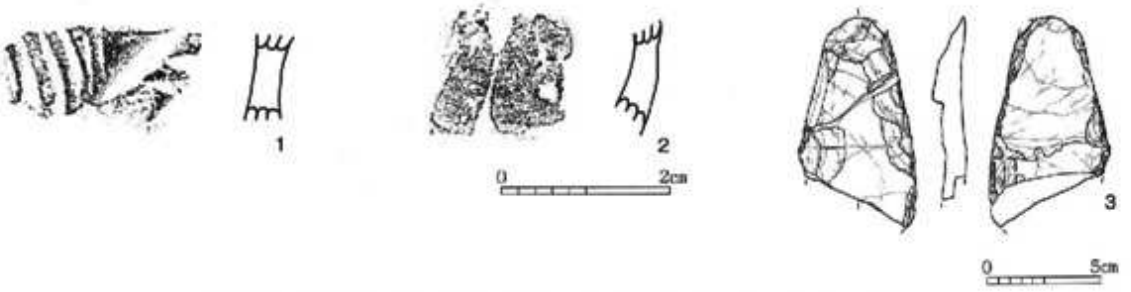
黒褐色土(耕作土)。Ⅱ層は20cm前後の黒褐色土でⅠ層よりしまっている。ローム粒が混じる旧い耕作土が広範囲でみられた。Ⅲ層は7cm前後のローム漸移層。Ⅳ層はソフトローム層である。

出土した遺物は少ないがトレンチ別に取り上げ、小竪穴の検出位置の測量はトレンチ設定の基準杭を基に行った。調査面積は30.5㎡である。

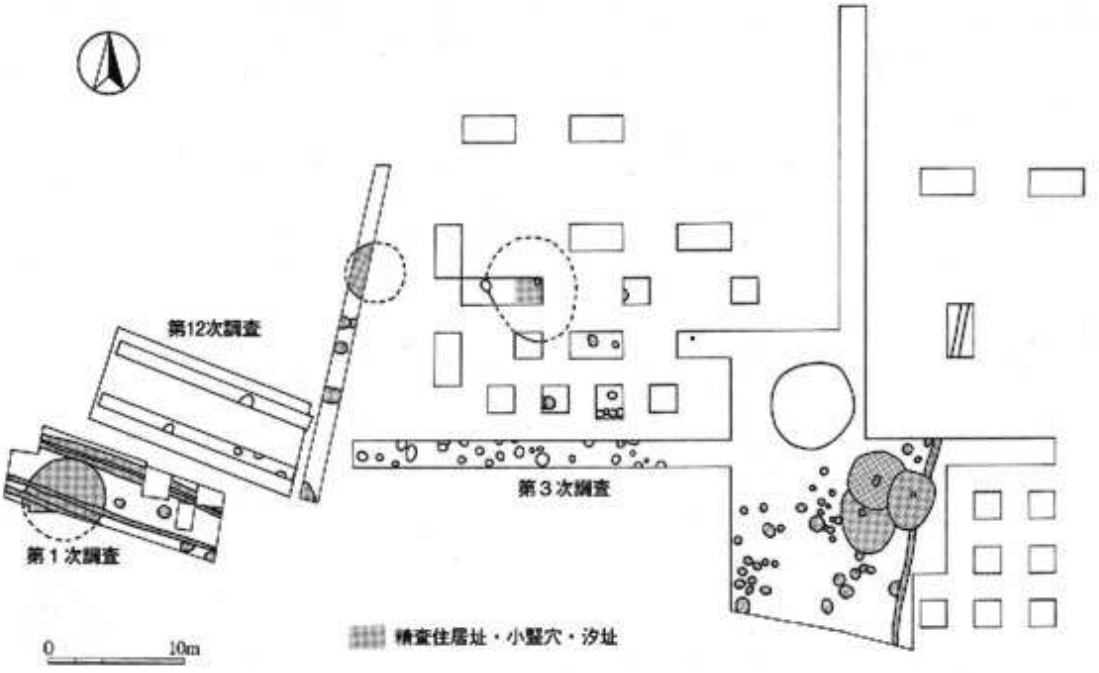
6　遺構と遺物

(1) 確認した遺構

トレンチ1・トレンチ2の調査で、ローム漸移層からソフトローム層上面でローム粒混じりの褐色土、ローム粒混じりの黒褐色土が落ち込む小竪穴5基を検出した。隣接する第3次調査では埋没保存処置を



第5図　雁頭沢遺跡土器拓影、石器実測図（1・2　1：2、3　1：3）



第6図　雁頭沢遺跡遺構配置図1・3・12次調査（1：500）

計った小竪穴に番号を付していることから、本調査でも第4図に示したとおり小竪穴91～95の番号を付し、表3にまとめたが小規模なものばかりである。埋没保存を前提とした遺構確認調査であり精査した小竪穴はない。したがって性格などは不明である。

（2）遺物

トレンチ調査で、縄文中期中葉の土器破片と石器が僅かに出土したが、小竪穴に伴うものではない。

土器は、小破片ばかり5点で第5図1・2の2点を図示した。2の1点がトレンチ1からの出土で、残り4点は表面採集である。

石器は、トレンチ1から第5図3のフォルンフェルス製の打製石斧で刃部を欠損する破損品1点、硬砂岩の剥片1点、黒曜石の剥片1点は図示しなかったが使用痕が認められる。トレンチ2からは黒曜石の剥片1点が出土しただけである。

7　まとめ

埋没保存を考えた調査であり、検出した小竪穴の精査はしていない。したがって性格などは一切不明であるが、第1次調査と第3次調査の成果を考え合わせると、第6図に示したように小竪穴5基は環状集落址の中央部に位置していることは間違いなく、典型的な環状集落が形成されていたことを窺い知ることができよう。今後も開発は予想されるので注意深く見守っていく必要がある。

参考・表作成文献

文1　1985. 7　原村役場『原村誌　上巻』

文2　1980. 3　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財16　雁頭沢遺跡（第3次）　住宅団地造成に伴う緊急発掘調査概報』

文3　1993. 3　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財21　雁頭沢（第4次）・下原山茂佐久保（第3次）遺跡　平成4年度住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書』

文4　1994. 3　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財23　雁頭沢遺跡（第5次）　住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書』

文5　1994. 3　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財24　雁頭沢遺跡（第6次・第7次）　住宅建設及び工場建設に伴う緊急発掘調査報告書』

文6　1998. 3　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財47　雁頭沢遺跡（第8次発掘調査）　平成9年度県営圃場整備事業原村西部地区に先立つ緊急発掘調査報告書』

文7　2002. 3　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財61　居沢尾根遺跡（第8次）　雁頭沢遺跡（第10次）久保地尾根遺跡（第8次）　平成13年度中部電力東日本鉄道信濃境分岐線（№4～№10）間電線高上げ工事鉄塔建設に先立つ居沢尾根遺跡緊急発掘調査・建売住宅建設に先立つ雁頭沢遺跡緊急発掘調査・宅地造成に先立つ久保地尾根遺跡緊急発掘調査報告書』

文8　1994. 3　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財67　雁頭沢遺跡（第11次）　平成15年度工場および駐車場建設に先立つ緊急発掘調査報告書』

Ⅱ　前沢遺跡

1　発掘調査の経過

数年前に個人住宅建設に先立ち遺跡の照会があり計画を知るところとなるが、たまたま予定地に前沢遺跡が所在していたため、その保護につき数回にわたり協議を行ってきた。住宅建設の要望は強く「記録保存やむなき」との結論に至り、平成18年度に緊急発掘調査を実施しする方向で同意をみた。

その後も調査日程等の打ち合わせを行い、原村教育委員会は国庫から発掘調査補助金交付を受け、平成18年５月11日から25日にわたり緊急発掘調査を実施した。

2　調査組織

事務局　原村教育委員会

教　育　長　津金　喜勝（～平成18年７月22日）
望月　　弘（平成18年７月23日～）

教育課長　百瀬　嘉徳

文化財係長　平出　一治

文化財係　平林とし美

調査団　団　　長　津金　喜勝（原村教育委員会教育長　～平成18年７月22日）
望月　　弘（原村教育委員会教育長　平成18年７月23日～）

調査担当者　平出　一治（文化財係長）

調査参加者　発掘調査　鎌倉　光弥　小島久美子　小林　りえ　坂本ちづる
和田　孝幸

整理作業　小林　りえ　坂本ちづる

3　発掘調査の経過

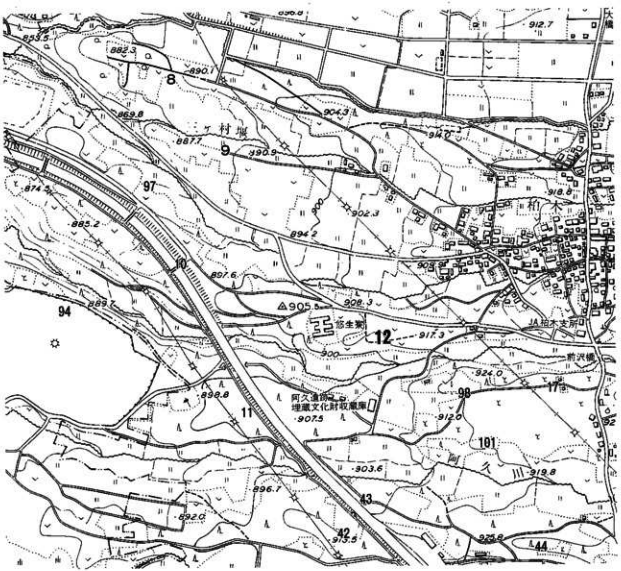
平成18年　５月11日　発掘準備をはじめる。

23日　現地で打ち合わせを行う。

24日　トレンチ設定を行う。

25日　重機でトレンチの掘削をはじめるが、遺物包含層である黒色土は取り除かれており、すでに遺跡は破壊されていた。埋土は軟弱で崩壊の危険性があるため、調査方法をトレンチから試掘穴に変更した。遺跡の破壊が明らかになった時点で記録と埋め戻しを行う。

26日　片付けを行い調査は終了する。



第7図　前沢遺跡の位置と周辺の遺跡（1：10,000）

表4　前沢遺跡の位置と周辺遺跡一覧

○は遺物発見　◎は住居址発見

番号	遺跡名	旧石器	縄文					弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前	中	後	晩							
8	比丘尼原北				○	○	○					◎		○	平成10・13・14年度発掘調査
9	比丘尼原				◎	◎						◎		○	平成8・13年度発掘調査　消滅
10	柏木南	○			◎	◎						○			昭和51・平成14年度発掘調査
11	阿久			○	◎	◎	○					◎			国史跡　昭和50～54・平成5・7・11・12・13年度発掘調査
12	前沢				○	◎						◎		○	昭和55・61・平成10・11・18年度発掘調査
17	臼ヶ原			○	○	○						○			昭和53・平成10年度発掘調査
42	居沢尾根	○				◎	○					◎			昭和50～52・56・平成6・11～13年度発掘調査
43	中阿久					○								○	昭和51年度発掘調査
44	原山					◎						○			
97	塩水			○	○	◎	○								平成9・14年度発掘調査
98	臼ヶ原西						○					○			平成10年度発掘調査　消滅
101	臼ヶ原南				○	◎	○					◎			平成10・11年度発掘調査　消滅

4　位置と環境

前沢遺跡（原村遺跡番号12）は、長野県諏訪郡原村柏木区に所在する。このあたりは八ヶ岳西麓に位置し、東西に細長く伸びた大小様々の尾根が幾筋も見られるが、それらの尾根上から斜面には第７図および表８に示したように縄文時代を中心とした多くの遺跡が埋蔵されている。その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する大早川と小早川により南と北を浸蝕された東西に細長い尾根上から南斜面に立地している。

遺跡は、県営圃場整備事業原村西部地区によって広範囲がすでに平坦化され、調査地点付近の僅かな範囲が原地形を留めているだけである。標高920m前後を測り、地目は水田で地味は良くみえていたが、すでに遺物包含層である黒褐色土は取り除かれ、工事などによる残土による埋土が行われていた。

本遺跡における発掘調査は第５表にまとめたが、昭和53年度の村道改良事業から５次を数え、縄文時代中期と平安時代後期における小規模集落址であることが判ってきている。

表５　前沢遺跡発掘調査一覧表

	調査年度	調査原因	検出遺構等	文献
第１次	昭和54年	村道改良事業		文1
第２次	61年	村道改良事業・土取り	縄文時代早期小竪穴　３基 中期竪穴住居址　１軒 近世　墓壙　４基	
第３次	平成10年	県営圃場整備事業原村西部地区	近・現代　タメ址　１基	文9
第４次	11年	県営圃場整備事業原村西部地区	縄文時代中期竪穴住居址　１軒 小竪穴　１基 平安時代後期竪穴住居址　１軒	文10
第５次	18年	個人住宅建設	本調査	本調査

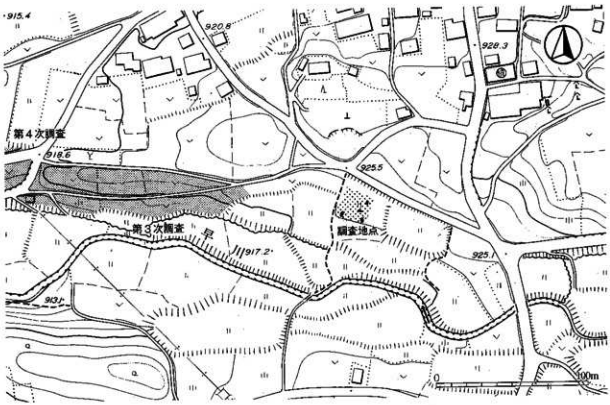
5　調査方法と層序

発掘調査の対象は、第８図に示した住宅建設予定地で、トレンチを住宅の南北方向に軸を合わせ設定し、重機でトレンチの掘削をはじめたが、遺物包含層である黒褐色土はすでに持ち出され、工事などによる残土で埋められていたが不安定なものであり、トレンチが掘削できる状態ではなかった。

予定地の隅３個所にグリッド状の試掘穴をあけるが、Ⅰ層の耕作土は20cm前後、Ⅱ層のローム・礫混じりの埋土は80cm前後と深いが、全ての穴で黒褐色土が取り除かれていることを確認した。したがって、遺跡はすでに破壊されていることが明らかになる。調査面積は12㎡である。

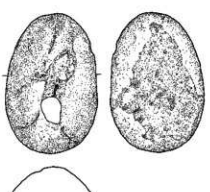
6　遺構と遺物

遺物包含層である黒色土は「調査方法と層序」で述べたように、すでに遺物包含層である黒褐色土は取り除かれ遺跡は破壊されていたが、トレンチ設定の折りに凹石１点を採集した。



第8図　前沢遺跡発掘区域図・地形図（1：2,500）

遺物は、第9図に図示した蝉石安山岩製の凹石1点だけである。新しいキズがみられるが、片手で容易に握ることができるもので重さは470gを計る。



第9図　前沢遺跡石器実測図（1：3）

7　まとめ

トレンチ調査に着手したところ、遺物包含層となる黒褐色土はすでに取り除かれ、工事等による残土で埋められていることを確認する。という残念な結果で、遺跡はすでに破壊されていた。

参考・表作成文献

文1　1985. 7　原村役場『原村誌　上巻』

文9　1999. 3　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財49　前沢・臼ヶ原・臼ヶ原西・臼ヶ原南遺跡　平成10年度県営圃場整備事業原村西部地区に先立つ緊急発掘調査報告書』

文10　2000. 3　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財52　臼ヶ原南遺跡（第1・2次）　前沢遺跡（第4次）阿久遺跡（第9次）　平成10・11年度県営圃場整備事業原村西部地区に先立つ緊急発掘調査報告書』

Ⅲ　出寺平遺跡

1　発掘調査の経過

平成18年に個人住宅の建設に先立ち遺跡の照会があり計画を知ることになるが、たまたま予定地に出寺平遺跡（原村遺跡番号40）が所在していたため、その保護につき数回にわたり協議を行った。住宅建設の要望は強く「記録保存やむなき」との結論に至り、平成18年度に緊急発掘調査を実施しする方向で同意をみた。

その後も調査日程等の打ち合わせを行い、原村教育委員会は国庫から発掘調査補助金交付を受け、平成18年７月25日から８月３日にわたり緊急発掘調査を実施した。

2　調査組織

事務局　原村教育委員会

教育長　望月　弘

教育課長　百瀬　嘉徳

文化財係長　平出　一治

文化財係　平林とし美

調査団　団長　望月　弘（原村教育委員会教育長）

調査担当者　平出　一治（文化財係長）

調査参加者　発掘調査　鎌倉　光弥　小島久美子　小林　りえ　坂本ちづる

和田　孝幸

整理作業　小林　りえ　坂本ちづる

3　発掘調査の経過

平成18年７月25日　発掘準備をはじめる。

27日　現地で打ち合わせを行う。

８月１日　トレンチ設定を行う。

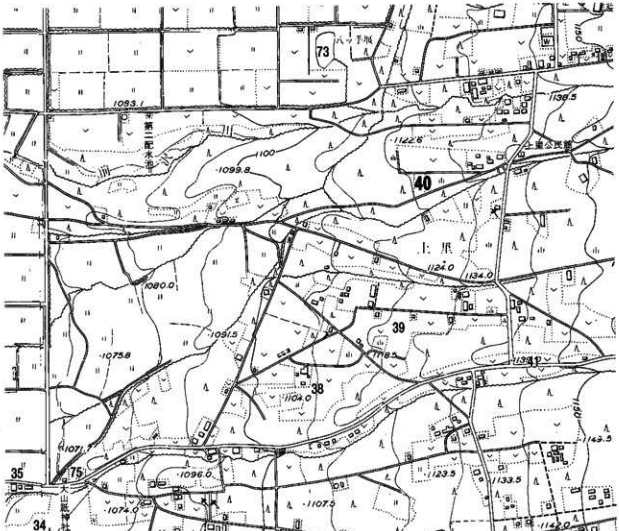
２日　重機でトレンチを掘削し、引き続き人力でトレンチ内の精査を行うが、遺物・遺構を検出するまでには至らない。記録と埋め戻しを行う。

３日　片付けを行い調査は終了する。

4　位置と環境

出寺平遺跡（原村遺跡番号40）は、長野県諏訪郡原村上里区に所在する。このあたりは八ヶ岳西麓に

位置し、東西に細長く伸びた大小様々の尾根が幾筋も見られる。それらの尾根上から斜面には第10図および表6に示したように縄文時代を中心とした遺跡が埋蔵されている。その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する小早川の支流と前沢川により、南と北を浸蝕された東西に細長い尾根上から南斜面に立



第10図　出寺平遺跡の位置と周辺の遺跡（1：10,000）

表6　出寺平遺跡の位置と周辺遺跡一覧

○は遺物発見　◎は住居址発見

番号	遺跡名	旧石器	縄文 草	縄文 早	縄文 前	縄文 中	縄文 後	縄文 晩	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
34	柳ノ木					○	○								
35	臥竜					◎	◎					○			村史跡　昭和33・35・36・45・57・平成3・7・8年度発掘調査
38	中原					○						○	○		
39	上里											○			消滅
40	出寺平											◎			平成18年度発掘調査
41	長尾根日向					○			○						
73	鹿垣										○				消滅
75	山ノ神上					○	◎								昭和45・57・平成8年度発掘調査

地していたと思われる。

調査対象地区一帯の現状の地形は平坦面が広く、付近を概観すると南には享保9年（1724）に開削された坪の端汐があり、汐幅は広く地形は大きく変わっていることが考えられる。北側にはロームの壁が露出しており尾根が削平されていることは明らかで、遺跡の多くはすでに破壊されているように思われる。

調査地点の標高は1,130m前後を測り、村内においては最も高所に位置する遺跡である。地目は普通畑であるが現状は荒地で、礫の散乱がみられ地味は良くない。

本遺跡について『原村誌　上巻』に次のように記載されている。

（40）出寺平遺跡（上里）

上里区の西方に位置する遺跡である。以前から土器の出土は知られていたが、昭和54年度分布調査で遺物の散布範囲がほぼ明確にされてきている。平安時代の土師器・須恵器および灰釉陶器の破片が比較的多く採集されることからみて、住居址の存在が推測される。

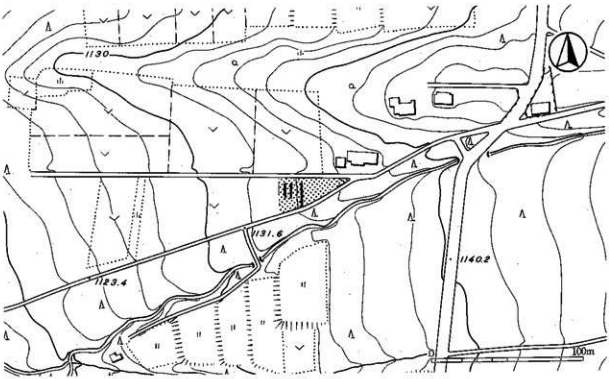
また、『諏訪史一』に記載のある蕨手刀が発見された鹿垣遺跡は、本遺跡の北を流れる前沢川の対岸である。その関連からも注意すべき遺跡であろう。

5　調査方法と層序

発掘調査の対象は、第11図に示した住宅建設用地で、住宅の基礎に合わせたトレンチを設定し、重機で巾1.2m（バケット巾）のトレンチ1～3を掘削し、引き続き人力でトレンチ内の精査を行い、遺物と遺構の検出につとめたが、何れも発見するまでに至らず調査は終了した。

土層は、基本的に上層からみて、Ⅰ層は20前後の黒色土（耕作土）であるが、色調はⅡ層と明らかに異なることから盛土と思われる。Ⅱ層は黄色味の強い礫混じりの褐色土で、礫の数は多く握り拳大から子供の頭大まで様々なものである。当地方においてこの礫混じりの層で遺構を検出したことはない。Ⅲ層は礫混じりのロームで、礫は多くやはり大小様々なものである。調査面積は40㎡である。

写真4
出寺平遺跡調査対象地区遠景
（西から）



第11図　出寺平遺跡発掘区域図・地形図（1：2,500）

6　遺構と遺物

遺物・遺構を検出するまでには至らなかった。

7　まとめ

本調査では遺物・遺構の検出は皆無であったが、近くに巌手刀が出土した鹿垣遺跡があり『諏訪史第1巻』の「原始時代遺物発見地名表」の原村・八ッ手・鹿垣の備考覧に「大弓良」、『諏方大明神画詞』の「58段　押立御狩」に「臺弓良山」とみえ、5月2日から4日の3日間にわたり狩が行われたことを伝えている。その五月会押立御狩の場所を特定する研究で「台弓良」と「出寺平」の違いはあるが、本遺跡がその狩場である台弓良の入り口付近にあたることが明らかになりつつあり、諏訪神社研究上において重要な遺跡である。今後も開発は予想されることであり注意深く見守っていく必要があろう。

参考文献

1924.12　鳥居龍蔵『諏訪史　第1巻』
1979.8　今井廣亀編『諏方大明神畫詞』
1985.7　原村役場『原村誌　上巻』
1998.5　宮坂光昭　解説　折井宏光　絵『諏方大明神画詞』
2004.12　牛山甲子恵「原村郷土研究会報告　台弓良山考」(『公民館報はら』190)
2005.9　牛山甲子恵「台弓良山考」(『月刊オール諏訪』9月号　2005－25（252）)

Ⅳ　二枚田遺跡

1　発掘調査の経過

平成18年に個人住宅の建設に先立ち遺跡の照会があり計画を知ることになるが、たまたま予定地に二枚田遺跡（原村遺跡番号67）が所在していたため、その保護につき数回にわたり協議を行った。住宅建設の要望は強く「記録保存やむなき」との結論に至り、平成18年度に緊急発掘調査を実施しする方向で同意をみた。

その後も調査日程等の打ち合わせを行い、原村教育委員会は国庫から発掘調査補助金交付を受け、平成18年11月１日から15日にわたり緊急発掘調査を実施した。

2　調査組織

事務局　原村教育委員会

教育長　望月　弘

教育課長　百瀬　嘉徳

文化財係長　平出　一治

文化財係　平林とし美

調査団　団長　望月　弘（原村教育委員会教育長）

調査担当者　平出　一治（文化財係長）

調査参加者　発掘調査　鎌倉　光弥　小島久美子　小林　りえ　坂本ちづる

和田　孝幸

整理作業　小林　りえ　坂本ちづる

3　発掘調査の経過

平成18年11月１日　発掘準備をはじめる。

13日　現地で打合せ、トレンチ設定を行う。

14日　重機でトレンチを掘削し、引き続き人力でトレンチ内の精査・記録を行う。

15日　人力でトレンチ内の精査を行うが、遺物・遺構を検出するまでに至らない。記録・埋め戻しおよび片付けを行い調査は終了する。

4　位置と環境

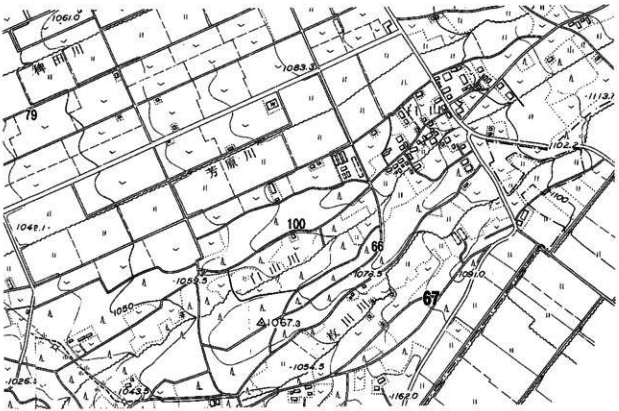
二枚田遺跡（原村遺跡番号67）は、長野県諏訪郡原村中新田区に所在する。このあたりは八ヶ岳西麓に位置し、東西に細長く伸びた大小様々の尾根が幾筋も見られるが、それらの尾根上から斜面には第12

図および表７に示したように縄文時代を中心とした多くの遺跡が埋蔵されている。その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する富士見二の沢川と二枚田川により南と北を浸蝕された東西に細長い尾根上から南斜面に立地している。

調査地点は、第２・３次調査地点の西側に位置し、ここは本遺跡の中で一番尾根幅が狭いところで馬の背状になるが、これより西で尾根幅は再び広くなる。

調査地点の標高は1,078m前後を測り村内においては高所に位置している遺跡である。地目は山林で南斜面付近においては黒色土の堆積が厚く地味は良いが、その南の低地は大小様々な礫の散乱がみられ地味は良くない。

本遺跡における発掘調査は第８表にまとめたが、平成10年度に実施した県営担い手基盤整備事業深山地区事業から５次を数えるが、第２・３次調査で縄文時代中期初頭の住居址を南斜面で検出調査しており、当地方においては比較的数少ない縄文時代中期初頭の集落址であることが判ってきている。



第12図　二枚田遺跡の位置と周辺の遺跡（１：10,000）

表７　二枚田遺跡の位置と周辺遺跡一覧

○は遺物発見　◎は住居址発見

番号	遺跡名	旧石器	縄文 草	縄文 早	縄文 前	縄文 中	縄文 後	縄文 晩	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
66	迫分沢					○	○					○			平成10年度発掘調査
67	二枚田					◎			○						平成10・13・14・18年度発掘調査
79	中御射山東						○								昭和59年度発掘調査　消滅
100	南荒尾					○						◎			平成10年度発掘調査

表8　二枚田遺跡発掘調査一覧表

	調査年度	調査原因	検出遺構等	文献
第1次	平成10年	県営担い手育成基盤整備事業深山地区	時代不詳　小竪穴　2基	文11
第2次	13年	個人住宅建設	縄文時代中期竪穴住居址　2軒 小竪穴　8基	文12
第3次	14年	宅地造成事業	縄文時代中期竪穴住居址　1軒 小竪穴　1基	文13
第4次	18年	個人住宅建設	本調査	本調査

5　調査方法と層序

発掘調査の対象は、第13図に示した住宅建設予定地である。住宅は県道から離れた位置に計画されていたことから、県道から住宅までにトレンチ1、住宅の南北方向に軸を合わせたトレンチ2～4を設定し、重機で巾1.2m（バケット巾）のトレンチ1～4を掘削し、引き続き人力でトレンチ内の精査を行い、遺物と遺構の検出につとめたが、何れも発見するまでには至らず調査は終了した。

南斜面の土層は、基本的に上層からみてⅠ層は20cm前後の黒色土（表土）。Ⅱ層は真黒色土で斜面下方ほど堆積は厚いが、ローム粒黄褐色土の流れ込みが数回にわたり認められた。Ⅲ層は褐色土。Ⅳ層はローム粒混じりの黄褐色土である。低地のⅠ層は数cmの黒色土（表土）であるが礫もみられる。Ⅱ層は礫混じりの黒色土でⅠ層より礫が多くなる。当地方においてこの礫混じりの層で遺構を検出したことはない。調査面積は87.6㎡である。

第13図　二枚田遺跡発掘区域図・地形図（1：2,500）

6　遺構と遺物

遺物・遺構を検出するまでには至らなかった。

7　まとめ

南斜面の調査であるが傾斜が強いためか遺物・遺構を検出するまでに至らなかったが、対象範囲が狭いこともあり遺跡の範囲を明らかにすることはできなかった。第２次調査と本調査は住宅建設であり、第３次調査は宅地造成事業であり宅地化が進んでいるが、未だ遺跡の西外縁部が明らかにできない状態である。今後も開発は予想されることであり、早急に遺跡の範囲を明らかにする必要がある。

参考・表作成文献

文11　1999. 3　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財50　追分沢・南長尾・二枚田遺跡　平成10年度県営担い手育成基盤整備事業深山地区に先立つ緊急発掘調査報告書』

文12　2002. 3　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財60　二枚田遺跡（第２次）　久保地尾根遺跡（第７次）平成13年度個人住宅建設に先立つ緊急発掘調査報告書』

文13　2003. 3　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財64　二枚田遺跡（第３次発掘調査）　平成14年度宅地造成事業に先立つ緊急発掘調査報告書』

原村の埋蔵文化財71

雁頭沢遺跡（第12次）　前沢遺跡（第５次）
出寺平遺跡　二枚田遺跡（第４次）

平成18年度　駐車場建設に先立つ雁頭沢遺跡第12次、個人住宅建設に先立つ前沢遺跡第５次、出寺平遺跡、二枚田遺跡第４次緊急発掘調査報告書

発行日　平成19年３月

発　行　原村教育委員会
長野県諏訪郡原村

印　刷　ほおずき書籍㈱

報告書抄録

ふりがな	がっとざわいせき　まえざわいせき　でいでらいせき　にまいだいせき
書名	雁頭沢遺跡　前沢遺跡　出寺平遺跡　二枚田遺跡
副書名	平成18年度　駐車場建設に先立つ雁頭沢遺跡第12次、個人住宅建設に先立つ前沢遺跡第５次、出寺平遺跡、二枚田遺跡第４次緊急発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	原村の埋蔵文化財
シリーズ番号	71
編著者名	原村教育委員会
編集機関	原村教育委員会
所在地	〒391-0192　長野県諏訪郡原村6549番地１　℡　0266-79-7930
発行年月日	西暦　2007年03月

所収遺跡	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
雁頭沢	長野県諏訪郡 原村柏木	3637	53	35度 57分 35秒	138度 12分 31秒	20060511 ～ 20060524	30.5	遺構確認調査
前沢	長野県諏訪郡 原村柏木	3637	12	35度 57分 47秒	138度 11分 59秒	20060511 ～ 20060526	12.0	住宅建設
出寺平	長野県諏訪郡 原村上里	3637	40	35度 58分 6秒	138度 14分 48秒	20060725 ～ 20060803	40.0	住宅建設
二枚田	長野県諏訪郡 原村中新田	3637	67	35度 56分 11秒	138度 14分 47秒	20061101 ～ 20061115	87.6	住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
雁頭沢	集落跡	縄文時代	中期 小竪穴　５基（確認）	中期土器破片、石器	環状集落址中央部の小竪穴を確認した。
前沢	包蔵地	縄文時代		石器	
出寺平					
二枚田					